

# 大分県

## 森林環境税の取組み実績

令和3年度の事業概要

農林水産部 森との共生推進室

# 目 次

大分県森林環境税の概要	1
大分県森林環境税の積立・執行状況	2
令和3年度大分県森林環境税活用事業一覧表	3

## I 県民の暮らしを守る安全・安心の森林づくり

1. 災害に強い森林づくり推進事業	4
2. 環境林整備事業	※伐採がR3年度末のため植栽実績なし
3. 地域の安心基盤づくりサポート事業	6
4. 安全・安心な道路環境創出事業	8
5. 鳥獣被害総合対策事業	10
6. 森と海をつなぐ環境保全推進事業(流木等被害対策緊急防除事業)	
	※処理が必要な港湾内流木の発生が無かったため事業実績なし
7. 森と海をつなぐ環境保全推進事業	12
8. 豊かな水環境保全推進事業	14

## II 森林資源と循環利用による地域活性化

1. 再造林促進事業	16
2. 優良竹林化・利活用推進事業	18
3. 竹産業振興対策事業	20
4. 伝統工芸品産業振興事業	※全国竹の大会は延期のため実績なし

## III 森を守り親しみ、次世代につなぐ取組

1. 魅力ある景観づくり推進事業	21
2. 森林づくりボランティア活動促進事業	22
3. 森林・林業教育促進事業	
① 森林林業教育促進事業	27
② 森林林業教材作成事業	29
③ 森の先生派遣事業	30
④ 名樹とのふれあい事業	31
⑤ 次代の森林づくり活動リーダー育成事業	33
4. 森林環境学習促進事業	35
5. 未来の環境を守る人づくり事業	36
6. 全国育樹祭開催準備事業	38
7. 農山漁村を牽引する担い手確保・育成事業	40
8. みんなで支える森林づくり推進事業	41
9. おおいたの森林づくり広報推進事業	45
10. 祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク施設整備事業	※R4年度に繰越のため実績なし

# 大分県森林環境税の概要

## 1 大分県森林環境税導入の目的

森林環境の保全と、森林を全ての県民で守り育てる意識の醸成のための施策に必要な財源を確保するため、平成18年度から県民税の特例として森林環境税を導入した。

## 2 大分県森林環境税の概要

- 期 間 税の特例期間：5年  
第Ⅰ期：平成18年度～平成22年度  
第Ⅱ期：平成23年度～平成27年度  
第Ⅲ期：平成28年度～令和2年度  
第Ⅳ期：令和3年度～令和7年度
- 税 額 個人…年額 500円  
法人…年額 1,000円～40,000円（法人県民税（均等割額）の5%）
- 税 収 単年度 約3億3千万円
- 管理・運営 ・徴収した税は「森林環境保全基金」に積立て、他の事業と区別し活用  
・基金の適正な運用を図るため、第三者機関「大分県森林づくり委員会」を設置し、事業の審査や成果の検証等を実施

## 3 大分県森林環境税の使途

下記のテーマに沿い、荒廃した森林の整備や、再造林の推進、木材の需要拡大、県民が自ら提案し実行する森林づくりの支援、森林ボランティア活動の推進等の事業を実施

### <第Ⅰ期 平成18年度～平成22年度>

テーマ：県民主導、個性豊かな取組、  
多くの県民が参加する仕組みづくり

- I 県民意識の醸成
- II 環境を守り災害を防ぐ森林づくり
- III 持続的経営が可能な森林づくり
- IV 遊び、学ぶ森林づくり

### <第Ⅱ期 平成23年度～平成27年度>

テーマ：県民生活を守り、地球環境保全に  
つながる森林づくり

- I 災害に強く、生物多様性に配慮した森林の整備
- II 低炭素社会に向けた森林資源の確保と循環利用
- III 県民参加の輪を広げ、次世代へつなぐ取組

### <第Ⅲ期 平成28年度～令和2年度>

テーマ：自然豊かな大分の魅力を育む  
持続可能な森林づくり

- I 県民生活と自然環境を守る森林づくり
- II 森林資源の循環利用による地域活性化
- III 森にふれ親しみ、森林づくりを支える取組

### <第Ⅳ期 令和3年度～令和7年度>

テーマ：大分の豊かな森林と木のある  
暮らしを次世代へ

- I 県民の暮らしを守る安全・安心の森林づくり
- II 森林資源の循環利用による地域活性化
- III 森林を守り親しみ、次世代につなぐ取組

# 大分県森林環境税の積立・執行状況

## <第Ⅰ期> (H18~H22)

### 1. 大分県森林環境税の積立状況 (千円)

	H18	H19	H20	H21	H22	合計
基金積立額	200,781	295,120	309,363	306,987	302,495	1,414,746

### 2. 大分県森林環境税の執行状況 (千円)

区分	年度別実績						
	H18	H19	H20	H21	H22	合計	割合(%)
I 県民意識の醸成	23,264	38,986	41,034	37,477	28,075	168,836	13.7
II 環境を守り災害を防ぐ森林づくり	77,325	110,919	102,612	137,995	195,344	624,195	50.7
III 持続的経営が可能な森林づくり	39,740	69,371	78,595	78,595	87,154	353,455	28.6
IV 遊び学ぶ森林づくり	14,706	23,231	22,150	14,729	11,027	85,843	7.0
合計	155,035	242,507	244,391	268,796	321,600	1,232,329	100

## <第Ⅱ期> (H23~H27)

### 1. 大分県森林環境税の積立状況 (千円)

	H23	H24	H25	H26	H27	合計
基金積立額	304,011	305,745	307,590	306,164	307,609	1,531,119

### 2. 大分県森林環境税の執行状況 (千円)

区分	年度別実績						
	H23	H24	H25	H26	H27	合計	割合(%)
I 災害に強く生物多様性に配慮した森林の整備	165,192	160,790	133,267	151,271	151,515	762,035	46.6
II 低炭素社会に向けた森林資源の確保と循環利用	151,090	105,251	142,308	93,772	88,837	581,258	35.6
III 県民参加の輪を広げ次世代へつなぐ取組	46,050	45,447	56,115	61,921	80,986	290,519	17.8
合計	362,332	311,488	331,690	306,964	321,338	1,633,812	100

## <第Ⅲ期> (H28~R2)

### 1. 大分県森林環境税の積立状況 (千円)

	H28	H29	H30	R1	R2	合計
基金積立額	315,240	317,844	321,592	322,917	324,642	1,602,235

### 2. 大分県森林環境税の執行状況 (千円)

区分	年度別実績						
	H28	H29	H30	R1	R2	合計	割合(%)
I 県民生活と自然環境を守る森林づくり	147,051	130,814	121,422	141,481	180,442	721,210	46.7
II 森林資源の循環利用による地域活性化	87,943	87,134	115,041	110,669	117,519	518,306	33.5
III 森にふれ親しみ、森林づくりを支える取組	51,105	66,623	79,918	58,312	49,867	305,825	19.8
合計	286,099	284,571	316,381	310,462	347,828	1,545,341	100

## <第Ⅳ期> (R3~R7)

### 1. 大分県森林環境税の積立状況 (千円)

	R3	R4	R5	R6	R7	合計
基金積立額	322,906	—	—	—	—	322,906

### 2. 大分県森林環境税の執行状況 (千円)

区分	年度別実績						
	R3	R4	R5	R6	R7	合計	割合(%)
I 県民生活と自然環境を守る森林づくり	140,751	—	—	—	—	140,751	47.0
II 森林資源の循環利用による地域活性化	112,761	—	—	—	—	112,761	37.7
III 森にふれ親しみ、森林づくりを支える取組	45,693	—	—	—	—	45,693	15.3
合計	299,205	0	0	0	0	299,205	100

※基金積立額は、税収から市町村の徴収に要する経費を引いたもの

# 令和3年度 森林環境税活用事業一覧表

(単位:千円)

	施策区分	事業名	事業費	担当課室	
I 県民の暮らしを守る安全・安心の森林	1 荒廃森林の整備	1 災害に強い森林づくり推進事業(旧:荒廃人工林緊急整備事業)(H30~)	22,209	森林整備室	
		2 環境林整備事業(R3~)※伐採がR3年度末のため植栽実績なし	1,920	森林整備室	
		3 地域の安心基盤づくりサポート事業(H30~R3)	10,000	河川課	
		4 安全・安心な道路環境創出事業(R2~)	20,000	道路保全課	
	2 シカ被害対策の推進	5 鳥獣被害総合対策事業(旧:森林シカ被害防止総合対策事業)(H30~)	83,683	森との共生推進室	
	3 森・川・海をつなぐ環境の整備	6 森と海をつなぐ環境保全推進事業(H18~)※流木なく実績なし	-	漁業管理課	
		7 森と海をつなぐ環境保全推進事業(H18~)	2,000	循環社会推進課	
		8 豊かな水環境保全推進事業(H26~)	939	うつくし作戦推進課	
			計	140,751	
	II に森よる資源地域の循環性活用	1 健全な人工林資源の拡大	1 再造林促進事業(H22~)	107,085	森林整備室
2 優良竹林化・利活用推進事業(旧:荒廃竹林整備・利活用推進事業)(R3~)			5,020	林産振興室	
2 森林資源の需要拡大		3 竹産業等振興対策事業(H24~)	656	林産振興室	
		4 伝統工芸品産業振興事業(R2~)※R3は全国竹の大会延期のため実績なし	-	商業・サービス業振興課	
		計	112,761		
III 森を守り親しみ、次世代につなぐ取組	1 里山林の保全活動の推進	1 魅力ある景観づくり推進事業(H25~)	10,000	都市・まちづくり推進課	
	2 森林ボランティア活動の促進	2 森林づくりボランティア活動促進事業	4,740	森との共生推進室	
		①森林づくりボランティア支援センター事業(H18~)	2,950		
		②森林づくり提案事業(H18~)	1,491		
		③山村多面的機能発揮対策事業(H28~)	299		
		④企業参画の森林づくり推進事業(H19~)※R3は予算措置なし	-		
	2 森林林業教育・森林ESDの推進	3 森林・林業教育促進事業	15,827	森との共生推進室	
		①森林林業教育促進事業(R3~)	3,481		
		②森林林業教材作成事業(R3~)	5,519		
		③森の先生派遣事業(H19~)	4,811		
		④名樹とのふれあい事業(H25~)	1,315		
		⑤次代の森林づくり活動リーダー育成事業(H18~)	701		
		4 森林環境学習促進事業(H18~)	4,410	社会教育課	
		5 未来の環境を守る人づくり事業(H28~)	2,439	うつくし作戦推進課	
	6 全国育樹祭開催準備事業(R1~)	3,154	全国育樹祭推進室		
	7 農山漁村を牽引する担い手確保・育成事業(R3~)	159	高校教育課		
3 森林整備への理解と参加を広げる活動	8 みんなで支える森林づくり推進事業(H18~)	3,337	森との共生推進室		
	9 おおいたの森林づくり広報推進事業(H18~)	1,124	森との共生推進室		
	10 祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク施設整備事業(H29~)※R4に繰り越し	503	自然保護推進室		
		計	45,693		
		合計	299,205		

# I - 1 災害に強い森林づくり推進事業

【森林整備室】

## 1 実施主体

森林組合

## 2 実施事業の概要

### (1) 現状と課題

平成24年7月の九州北部豪雨災害では、河岸の侵食により、河川沿いの手入れ不足の人工林が流木となり、下流域に被害を及ぼした。

また、尾根部や急傾斜地等の木材生産に適さない人工林では、皆伐後に再造林されずにそのまま放置される再造林放棄地や、獣害が多発する森林では、成林できず公益的機能が低下した森林が発生している。

### (2) 目的

河川沿いにおける流木発生の危険性が高い森林や、崩壊の危険性がある急傾斜地の再造林放棄地及び獣害により成林が妨げられ土砂の流出が懸念される森林を対象に森林整備を行い、山地崩壊防止等の公益的機能が発揮できる森林に誘導する。

### (3) 事業内容

#### ①河川沿いの森林整備

流木災害発生の恐れがある人工林を更新伐により伐採し、流木の発生を未然に防ぐ。

伐採後は、自然植生の回復等により広葉樹林化する。

#### ②獣害多発地の整備

土砂災害等の発生が懸念される成林が妨げられた森林において、初期成長に優れている早生樹を植栽し獣害リスクの軽減を図り、成林した森林を造成する。

## 3 成果

### ①河川沿いの森林整備

更新伐により、人工林を伐採し、流木発生を抑制するとともに広葉樹林化を図った。

〔森林整備面積〕

年度	H29	H30	R1	R2	R3	合計
計画	25ha	25ha	32ha	38ha	25ha	158.0ha
実績	21ha	35.5ha	35ha	37ha	30ha	158.5ha

## ② 獣害多発地の整備

早生樹を植栽し、森林の公益的機能の向上を図った。

〔植栽面積〕

年度	R2	R3	合計
計画	3.0ha	3.0ha	6.0ha
実績	1.0ha	0.68ha	1.68ha

## 4 今後の課題と取組

成林が妨げられた森林を解消する取組に加え、流木対策については、河川沿いの森林整備による広葉樹林化を引き続き県全域で展開し、治山事業の危険木除去事業と連携した流域単位での流木対策を進めることで、災害に強い森林づくりをさらに推進する。

## 5 実施状況写真（河川沿いの森林整備）



(実施前)



(実施後)

## I - 2 地域の安心基盤づくりサポート事業 (河川内小規模支障木緊急除却事業)

【河川課】

### 1 実施主体

大分県（土木事務所）

### 2 実施事業の概要

#### (1) 現状と課題

山腹崩壊により発生した流木や、河道内樹木が洪水時等に流出し橋梁等にひっかかることで河道閉塞を引き起こし、氾濫を拡大させる被害が多く発生しており、これらの支障木を速やかに撤去することが求められている。

#### (2) 目的

河道閉塞の原因となっている流木や河道内樹木等を除却することで、被害軽減対策による防災力強化を図る。

#### (3) 事業内容

県管理河川内で、流木や流水阻害を発生させる河道内樹木について、小規模なものを対象に伐採、運搬、処分を行う。

### 3 成果

河道内樹木等の伐採により、河川氾濫による住民への被害を未然に防止できた。

令和3年度伐採箇所	
豊後高田市	臼野川 他3箇所
国東市	田深川
別府市	春木川
大分市	江川
臼杵市	臼杵川
佐伯市	井崎川
豊後大野市	石用川 他2箇所
竹田市	稲葉川①
日田市	城内川 他3箇所
中津市	犬丸川
宇佐市	向野川 他4箇所

#### 4 今後の課題と取組

近年頻発する豪雨災害を踏まえ、人家があるなどの背後地状況を勘案し、緊急性の高い箇所から順次事業を実施し、河道内樹木による氾濫拡大の危険性解消に努める。

#### 5 実施状況写真

⇒：川の流れ



(実施前)



(実施後)

別府市 春木川



(実施前)



(実施後)

日田市 城内川

## I - 4 安全・安心な道路環境創出事業

【道路保全課】

### 1 実施主体

大分県（土木事務所）

### 2 実施事業の概要

#### （1）現状と課題

道路沿線の森林は、道路と自然が調和した良好な景観の形成や運転者の快適な道路利用を促進する効果がある。

しかし近年、土地所有者の責任で管理すべき森林が、「所有者の高齢化」や「森林の大径化」等により、伐採の個人対応が困難となり、適切に管理されていない状況である。これにより、台風・豪雨時には多くの倒木被害が発生し、孤立集落の発生や災害復旧活動への妨げが大きな問題となっている。

#### （2）目的

災害発生時に、倒木により道路を塞ぐなど甚大な被害につながる恐れのある樹木を対象に事前伐採を行い、安全・安心な道路環境の創出や防災力強化の取り組みを推進する。

#### （3）事業内容

県管理道路の沿線において、倒木により甚大な被害につながる恐れのある樹木の伐採を行う。

### 3 成果

県管理道路沿線の事前伐採により、安全・安心な道路環境の創出や防災力の強化を図った。

大分市	鶴崎大南線	1箇所
佐伯市	三重弥生線	1箇所
豊後大野市	百枝大野線	1箇所
竹田市	小川穴井迫線	1箇所
日田市	戸畑日田線	1箇所
宇佐市	国道387号	1箇所
計	6路線	6箇所

#### 4 今後の課題と取組

今後も、倒木時に「孤立集落の発生」や「災害復旧活動への妨げ」となる樹木の事前伐採を優先的にを行い、安全・安心な道路環境の創出や防災力強化に努める。

#### 5 実施状況写真

三重弥生線（佐伯市本匠山部）



(実施前)



(実施後)

戸畑日田線（日田市大字求来里）



(実施前)



(実施後)

小川穴井迫線（竹田市大字穴井迫）



(実施前)



(実施後)

## I - 5 鳥獣被害総合対策事業

### 【森との共生推進室】

#### 1 実施主体

市町村等

#### 2 実施事業の概要

##### (1) 現状と課題

ニホンジカによる農林業被害は県内で約 4,000 万円に上り、横ばい傾向で、地域によっては依然として深刻な被害が懸念される。捕獲により生息頭数が減少している地域もあるが、未だに高密度地域も多いことから、稀少植物の食害等、生態系への影響が危惧される。

##### (2) 目的

シカによる農林業・森林生態系被害は県内各地で発生しており、森林の有する公益的機能の低下が危惧されていることから、シカ捕獲の強化を行い、シカを適正な生息密度まで減少させることにより、森林の有する公益的機能の維持増進を図る。

##### (3) 事業内容

シカの適正管理に向けた生息密度調査を実施するとともに、シカの捕獲報償金の上乗せ助成により捕獲圧強化を図り、生息密度及び被害の低減に向けた取組を推進する。

#### 3 成果

県内 214 の調査定点において、シカの糞粒から生息密度を推定する調査を実施したことにより、県内の生息密度分布を捕捉することができた。

また、捕獲報償金による捕獲強化が図られ、シカの適正管理及び被害防止に資する取組を推進することができた。

令和 3 年度捕獲報償金事業実績：40,907 頭

#### 4 今後の課題と取組

##### (1) 課題

依然として県内のシカによる農林業被害は多く、適正な生息密度より高い状況にあり、引き続きシカ捕獲の推進による生息頭数の低減が必要である。

##### (2) 取組

再造林地やクヌギの萌芽へのシカ被害が発生していることから、引き続き、シカによる被害及び生息頭数を減少させるため、捕獲報償金による捕獲強化に取り組む。

## 5 実施状況写真



糞粒調査状況

# I-7 森と海をつなぐ環境保全推進事業

【循環社会推進課】

## 1 実施主体

地区自治会、NPO等の団体

## 2 実施事業の概要

### (1) 現状と課題

海岸漂着流木等は、下流域住民の生活や経済活動の障害であり、流木等の回収・切断や処理施設への搬送にかかる労働力と経費の負担が大きい。

### (2) 目的

漂着流木等の処理に必要な費用を助成し、地区自治会やNPO等の団体による海岸の環境保全活動を推進する。

### (3) 事業内容

団体名	場所	参加者数(人)	回収量(m <sup>3</sup> )
NPO 法人 水辺に遊ぶ会	三百間海岸・大新田海岸	567人	6m <sup>3</sup>
天津地域づくり協議会	宇佐市宮熊・布津部海岸	331人	30m <sup>3</sup>
NPO 法人国東市手と手とまちづくりたい	国東市内海岸	500人	3.5m <sup>3</sup>
長洲アーバンデザイン会議	長洲海岸	600人	10m <sup>3</sup>
大分県漁業協同組合 臼杵地区	臼杵市内各海岸	480人	54m <sup>3</sup>
大分大学附属中学校 インターアクトクラブ	田ノ浦ビーチ	73人	0.5m <sup>3</sup>
チーム2°Cおおいた協議会	スパビーチ・上人ヶ浜等	85人	2m <sup>3</sup>
間越地区活性化推進協議会	間越海岸・米水津湾	203人	25m <sup>3</sup>
日本風景街道 別府海岸・国東半島海 べの道推進協議会	大分、別府、日出、杵築、 国東、豊後高田の海岸	343人	3m <sup>3</sup>
べっぴんの海岸みまもり隊	餅ヶ浜・SPAビーチ	220人	7m <sup>3</sup>
大分県に役立つ楽しい会 日出	糸ヶ浜海浜公園	460人	0.3m <sup>3</sup>
NPO 法人 ABC 野外教育センター	住吉浜海水浴場	79人	0.4m <sup>3</sup>
ばんちゃの会	板知屋～上浦海岸	27人	4.1m <sup>3</sup>

## 3 成果 第Ⅲ期(平成29年度～)の実績数値

年度	H29	H30	R1	R2	R3
参加者数(人)	2,595	4,572	4,399	1,717	3,968
実施団体数(団体)	7	8	8	6	13

## 4 今後の課題と取組

令和3年度は申請団体数が13件と過去最多の採択数となった。その要因としてうつ

くし作戦推進隊に補助事業について呼びかけたこと、令和3年5月に大分合同新聞にて本事業をPRしたことが考えられる。特に新規申請団体数が8団体となり、参加人数も昨年度より増加した。海岸保全は沿岸部住民による自発的な取組によるところが大きい。一方で、近年川から流れ出るごみが多いという調査結果も出ており、海岸ごみの発生源になる内陸部住民にもごみ問題への認識を深めてもらう必要があることから活動を通じて、森・川・海の流域全体を保全する意識の醸成を図ることとしたい。

## 5 実施状況写真 水辺に遊ぶ会 大新田海岸清掃



# I - 8 豊かな水環境保全推進事業

【うつくし作戦推進課】

## 1 実施主体

4つのモデル河川で水環境保全活動を行うNPO、自治会等  
(※モデル河川：筑後川、大分川、大野川、犬丸川)

## 2 実施事業の概要

### (1) 現状と課題

近年、県内の河川の水質環境は改善傾向にあるものの、豊かな水環境を育むための、森林保全活動や河川及び海の美化・清掃活動等については、特定の住民や地域に限定されているなど、水環境保全を目的とした環境学習に対する関心度には地域によって偏りがある。

### (2) 目的

モデル河川の流域住民が主体となる流域会議で、それぞれの流域の課題に応じた水環境保全活動を展開し、豊かな水環境の創出を図る。

### (3) 事業内容

#### ①流域会議が行う河川保全活動への支援

- ・各流域の地域課題解決に向けた学習会の実施
- ・流域毎の課題に即した有識者や専門家の派遣
- ・イベント時に取組を紹介するコーナーの設置

#### ②川づくりを担う次世代の育成

- ・環境学習への資機材の提供と指導者派遣
- ・モデル河川毎での流域会議の開催

#### ③第4回アジア・太平洋水サミットへの出展準備

- ・令和4年4月23～24日に開催されるサミットへの出展準備

## 3 成果

〔流域会議〕

事業個所	流域会議 開催回数	イベント名	参加者数 (人)
大分川	6	宮川外来水草除去作業	64
		はさま見分け	12
		河川ごみ実態調査、河川清掃	221
大野川	0	芹川水生生物調査	26
犬丸川	1	こども調査隊	187
合計	7回		510

## 4 今後の課題と取組

### 《課題》

- ・流域毎の活動の自立と流域内外における連携促進
- ・流域会議の活動の定着
- ・地域住民に対する水環境への理解促進
- ・活動団体の高齢化に伴う担い手の確保

### 《取組》

- ・流域会議が行う河川保全活動への支援
- ・アジア・太平洋水サミット（R4.4）への出展参加支援

## Ⅱ－１ 再造林促進事業

【森林整備室】

### 1 実施主体

森林所有者、森林組合等

### 2 実施事業の概要

#### (1) 現状と課題

県内の人工林は利用期を迎えており、木質バイオマス発電施設や大型合板工場の稼働も追い風となり、国産材需要は増加傾向にある。

それに伴い主伐も増加傾向にあることから、持続的な林業経営を行うためには、主伐後は確実な再造林が求められている。

#### (2) 目的

林業適地における低コスト再造林を支援することにより、森林整備の育林コストを低減し、持続的な林業経営を推進する。また、早期に森林の公益的機能の回復を図る。

#### (3) 事業内容

伐採後の林業適地において、疎植造林(植栽本数 1,000～2,000 本/ha(法令による制限は遵守))を実施した森林所有者等に対し、大分県森林環境税を活用し、国庫補助に上乗せ助成を行う。

### 3 成果

事業を開始した平成 22 年度以降、再造林面積は増加しており、再造林放棄地が減少している。また、平成 21 年度は県下全体でスギ・ヒノキの疎植造林の割合が 44%であったが、令和 3 年度は 98%を占める割合となり、再造林のコスト縮減が図られた。

〔再造林促進事業の計画及び実績〕

【単位：ha】

年度	H 2 9	H 3 0	R 1	R 2	R 3
計画	650	850	1,000	1,000	926
実績	914	823	674	796	759

### 4 今後の課題と取組

各市町村及び森林組合等を通じて、低コスト再造林施業の普及啓発をさらに進め、再造林放棄地の解消を図る。

## 5 実施状況写真



## Ⅱ-2 優良竹林化・利活用推進事業

【林産振興室】

### 1 実施主体

市町村、森林組合等

### 2 実施事業の概要

#### (1) 現状と課題

竹材、タケノコ需要量は外国産や代替品等の台頭により減少し、放置竹林が増加している。

#### (2) 目的

竹材、タケノコ生産地として持続的管理が見込める荒廃竹林の再生を推進する。

#### (3) 事業内容

竹材、タケノコ生産地として持続管理や竹チップ等の利活用を推進するための竹林整備及び簡易作業路開設等を行う。

### 3 成果

タケノコ・竹林生産等の利活用を促進し、持続管理を図るための竹林整備を実施できた。

#### ① 伐竹等整備

3.67ha（別府市、日出町、大分市、臼杵市、日田市、玖珠町、豊後高田市）

#### ② 簡易作業路開設

400m（大分市、日田市）

### 4 今後の課題と取組

荒廃竹林は各地に多く残されているため、たけのこ生産竹林楽校等の取組により竹林整備の担い手を育成するとともに、優良竹林化の事業を継続し、荒廃竹林の整備を推進する。

5 実施状況写真



## Ⅱ-3 竹産業等振興対策事業(竹林楽校)

【林産振興室】

### 1 実施主体

大分県（林産振興室）

### 2 実施事業の概要

#### (1) 現状と課題

本県は全国2位の竹林面積を有しているが、代替素材の普及等により竹材利用量は減少傾向にあり、荒廃竹林増加の一因になっている。また、伐竹作業員の高齢化・後継者不足も課題となっている。

#### (2) 目的

たけのこ生産や竹材管理に関する基本的な知識や技術等を学ぶ竹林楽校を開催し、竹林を持続的に整備する竹林管理者を確保・育成する。

#### (3) 事業内容

- ①たけのこ生産竹林楽校・・・基礎知識、伐竹・収穫実習、先進地視察等  
研修生22名／研修3回実施
- ②竹林楽校特別研修・・・伐採技術研修を①の研修と併せて2回開催  
竹工芸訓練センター訓練生12名

### 3 成果

- ・たけのこ生産竹林楽校と竹工芸訓練センター研修生の特別研修を同時に行うことによって、様々な視点からの活発な意見交換ができた。
- ・第2回の実習では、たけのこ生産と竹材生産の2コースに生徒を振り分け、生徒の受講目的に沿った竹林管理方法について、十分な時間を確保して研修を行うことが出来た。

### 4 今後の課題と取組

たけのこや小径竹材、竹工芸用材を生産する担い手の高齢化や後継者不足が深刻な課題であるため、引き続き研修等の幅広いPRを行うと共に、補助事業により竹林の持続的な管理と、人材確保を推進する。

### 5 実施状況写真



基礎知識研修



現地での竹林管理研修

## Ⅲ－１ 魅力ある景観づくり推進事業(景観伐採事業)

【都市・まちづくり推進課】

### 1 実施主体

7市（別府市、中津市、佐伯市、竹田市、豊後高田市、宇佐市、国東市）

### 2 実施事業の概要

#### (1) 現状と課題

県内には、豊かな自然環境から創出された景観資源が多数あり、視点場の整備がなされてきたところであるが、手入れをされず放置された樹木等により、景観が阻害されている箇所が多く見受けられる。

#### (2) 目的

展望所の視点場において、眺望を阻害している樹木等を伐採することにより、景観を再生する。

#### (3) 事業内容

視点場からの眺望を阻害している樹木等の伐採を行う市町村へ補助を行う。

実施主体	伐採箇所	補助率
市町村	湯けむり展望台（別府市）、京岩の景（中津市）等 7市12箇所	1／2以内

### 3 成果

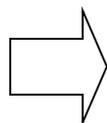
- ・展望所や観光ルート沿線の眺望が再生され、観光客を受け入れる準備が整った。
- ・伐採後、地元団体により伐採箇所周辺の清掃活動や遊歩道の整備が行われる等、優れた景観を維持・活用しようという機運が高まった。

### 4 今後の課題と取組

景観の支障となる樹木のある土地が民有地の場合、協力を得られないケースがある。景観の再生につながった事例等を活用し、景観保全の重要性について理解を求めていく。

### 5 実施状況写真

〈打上橋・打上水路橋（宇佐市）〉



## Ⅲ－２ 森林づくりボランティア活動促進事業

### 【森との共生推進室】

#### 1 実施主体

大分県、市町村、森林ボランティア団体等

#### 2 実施事業の概要

##### (1) 現状と課題

県では平成14年に設置した「大分県森林づくりボランティア支援センター」を中心に、森林ボランティア活動を推進している。ボランティア参加者数は令和元年度に新型コロナウイルス感染症の影響で大きく減少したが、令和3年度の参加者数は前年度と同水準を推移した。(令和3年度参加者数：12,239人)

また、県下各地に森林ボランティア団体が発足し、荒れた竹林や里山林の整備や森林環境教育を実施しているが、メンバーの高齢化や資金不足で活動の継続が困難な団体が多いのが現状である。

##### (2) 目的

県民一人ひとりが身近な森林づくりに参加し、県民みんなで森林を守る意識を醸成するために、県民が自ら取り組む森林づくり活動を支援し、森林ボランティア活動の活性化を図る。

##### (3) 事業内容

##### ①森林づくりボランティア支援センター事業

大分県森林づくりボランティア支援センター(大分市高尾山自然公園内)を設置し、HPや情報誌の発行によって森林ボランティア情報の収集・発信等を行い、森林ボランティア活動を支援した。

#### ア 森林ボランティア情報の発信



【センターHP】



【ボランティアセンター通信】

HPでは、現在募集中のボランティア活動等について、広く情報の発信を行った(令和3年度は66回更新)。また、毎月森林づくりボランティア支援センター通信の発行・配布を行った。これらの積極的な情報発信によって、県民が自ら取り組む森林づくり活動の機会を提供することができた。

## イ 森林づくりボランティア活動支援

★センターを通じた森林づくりボランティア活動支援の流れ

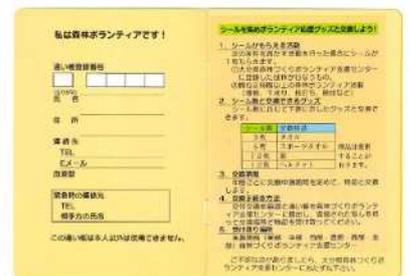
森林ボランティア登録者に対し、森林づくりボランティア通い帳を配布。活動に参加した登録者には活動証明シールを交付する。



森林づくり活動実績に応じて、令和3年度はタオル・鎌・鋸などの支援物32点を16名に交付した。



【支援物品】



【森林づくりボランティア通い帳】

## ウ ボランティア活動技能向上研修

森林づくりボランティア従事者を対象とした「伐採等の業務に係る特別教育講座(チェーンソー)」、「刈払機取扱作業安全衛生教育」によって、森林ボランティアの技術向上をはかった。

	参加回数	参加人数	内容
チェーンソー	3日×2回	5人	伐木作業の基礎知識、実習等
刈払機	1日×2回	1人	刈払機の基礎知識、実習等

【研修の様子】



〈実習〉



〈学科講習〉

## エ 新型コロナウイルス感染症対策について

公益社団法人国土緑化推進機構の作成したガイドラインに基づき、森林ボランティア活動時の感染予防対策（参加者の連絡先を把握、体温測定等）とともに、コロナ対策を行った上で安全に活動できるよう、周知を行った。

また、森林づくりボランティア支援センター通信等で情報発信を行い、予防対策の周知をはかった。

### 【ボランティア通信の記載例】

<p><b>文月</b></p> <p>気温が高くなるこれからの季節は、マスクをすることで熱中症にかかりやすい面もあります。森林内での活動（森林ボランティア、自然観察会等）でも下記に注意して、事故無く楽しく活動ができるようにしていきましょう。</p> <p>1) 事前に体温の測定と記録 2) マスクの着用・消毒液の携行 3) 参加者同士の距離（2m以上）を確保。詳細は「国土緑化推進機構 ガイドライン」でご確認ください。</p>	<p><b>熱中症予防 × コロナ予防で「新しい生活様式」を健康に!</b></p> <p>マスク着用により、熱中症のリスクが高まります。必要に応じてマスクを外して、「熱中症予防」と「コロナ感染防止」を両立させましょう!</p> <p>マスクをはずしてもいいとき 1) 屋外で 2) 人との距離が2m以上（十分な距離）離れている時</p> <p>マスク着用時の熱中症予防行動のポイント 1) 激しい運動は避けましょう 2) 喉が渇いていなくても、こまめに水分補給をしましょう ・1日あたり1,2リットルを目安に、大量に汗をかいたときは塩分も補給してください。 3) 気温・湿度が高いときは要注意</p> <p>活動時に注意すること ・森林ボランティア活動で昼食をとるときは離れて座りましょう ・道具、食器の共有はやめましょう ・手洗い、うがい、消毒も忘れずに。 ・発熱や、倦怠感があるときは森林ボランティア活動はやめましょう!</p>  
---	---

### 【令和3年度森林づくりボランティア支援センター事業実績】

委託先：NPO法人グリーンインストラクターおおいた
1) ボランティア情報の収集・発信 ・HPによる森林ボランティア情報発信（66回更新） ・「森林づくりボランティア通信」の発行（毎月1,000部発行）
2) 森林ボランティアの登録 個人（新規21名）
3) ボランティア通い帳の発行（21冊）
4) 森林づくりに関する相談、情報提供等 相談対応：9件、野外におけるコロナ対策情報の発信等
5) 森林づくり活動支援（機材貸出：10回、人材斡旋：10回・41人）
6) センター施設を活用した森林ボランティア活動、森林環境教育の支援 ・施設利用団体：12団体 ・年間利用者数：786人

### ②森林づくり提案事業

県民から提案のあった事業を審査し、採択した事業に対し補助を行った。



草刈作業（豊後大野市）



森林教室（中津市）

令和3年度 森林づくり提案事業 実績一覧表

(単位：円、人)

整理番号	流域名	活動団体名	活動場所 (市町村)	活動内容	交付額	活動参加者数
1	東部	夢咲き桜の会	国東市	除伐・下草刈り・植樹	194,050	106
2		護町会	杵築市	竹林整備	482,395	55
3	中部	三角台を守る会	臼杵市	下刈り、植樹	58,298	121
4		松ぼっくりの会	大分市	自然観察会、下刈り	57,400	52
5		もみの木に登ろう会	臼杵市	椎茸コマ打ち体験、下刈り	0	事業中止
6	豊肥	神角寺溪谷緑化推進会	豊後大野市	神角寺溪谷の森林整備 (下刈り・モミジ・ヤマボウシ等植栽)	149,000	122
7		特定非営利活動法人 里山保全竹活用百人会	竹田市	地域の児童等への森林環境教育 (自然観察・竹箸・門松づくり等)	135,000	53
8	西部	200海里の 森づくり実行委員会	日田市	下草刈り・植樹	65,750	58
9		特定非営利活動法人 初島森林植物園ネットワーク	日田市	下刈作業・補植、樹木名票設置	50,400	152
10	北部	三郷小学校みどりの少年団	中津市	①森林づくり活動 ②干潟の自然観察 ③源流の自然観察	91,260	42
	合計				1,283,553	761

③森林山村多面的機能発揮対策事業

森林経営計画の策定されていない森林を地域住民、森林所有者等が協力して実施する里山林の保全、森林資源の利活用などの取組に対し国、県及び市町村が助成する(実施団体：9団体)

令和3年度市町村別活動団体数

大分市	3団体
由布市	2団体
杵築市	2団体
豊後大野市	1団体
中津市	1団体

#### ④企業参画の森林づくり推進事業

企業が森林所有者、森林組合等と協定を結び実施する企業の森林づくりを支援した。令和3年度までの協定締結企業は33社となっており、2社が協定を締結した。

〈令和3年度 協定〉

- ・日本フォレスト株式会社
- ・株式会社九州コクボ



植樹の様子

### 3 成果

森林ボランティア団体等を対象とした技能向上研修等によって、森林づくりボランティア団体員の知識と技術向上を図った。また、県民から提案のあった森林づくり提案事業では15団体を対象に支援を行った。

森林ボランティア登録団体、登録者数ともに増加し、延べ12、879人が森林ボランティア活動に参加することで、県民みんなで森林を守り育てる意識の醸成ができた。

#### 【森林ボランティア団体・参加者数の推移】

年度	登録団体	登録個人(人)	参加者数(人)	目標参加者数(人)	達成率
H28	96	2,745	13,205	13,100	102%
H29	102	2,775	13,320	13,300	102%
H30	103	2,794	13,219	13,400	99%
R1	105	2,841	10,906	13,200	83%
R2	106	2,862	12,879	13,300	97%
R3	106	2,883	12,239	13,400	91%

### 4 今後の課題と取り組み

新型コロナウイルスの影響で活動を縮小・休止する団体もあったが、感染予防のガイドライン等を周知し、森林ボランティア参加者数の維持につとめた(目標の13,000人を概ね達成)。

引き続き県民に向けて情報発信を行うとともに、若い世代の森林ボランティア育成を推進する。

### Ⅲ－３ 森林・林業教育促進事業

#### 【森との共生推進室】

#### 1 森林林業教育促進事業

##### (1) 実施主体

大分県 委託先：「森づくり人材育成協議会」

##### (2) 実施事業の概要

###### ① 目的

森林・林業教育、自然体験活動に関わる団体が連携し、指導者の養成や派遣、体験プログラムの作成などに取り組み、大分の豊かな森林づくりを担い支える、豊かな感性を持った人材を育成する。

###### ② 事業内容

大分の森林・林業の現状や課題について指導することができる指導者を養成するため森林・林業教育を行う指導者育成研修を開催する。

また子どもの学びの段階に応じた森林・林業学習を推進するため、拠点となる体験フィールドを選定し、森林・林業副読本と連動する森林・林業体験プログラムを作成し、モデル校やみどりの少年団等で実施。

###### ③ 実績

○森林・林業教育指導者育成研修会開催実績

回	月日	内容	講師名	参加者数(名)
1	8月9日	「SDG s 推進のエンジンはESD」 ～森林ESDの可能性～	立教大学名誉教授 阿部 治 氏	29
2	8月28日	木材のすすめ ～環境にやさしい木質材料～	大分県林業研究部 城井 秀幸氏	26
3	9月4日	大分の森林・林業の現状と課題	大分県林務管理課 小関 崇氏	27
4	11月27日	学校カリキュラムにおける「森林・林業」 の取扱いと学習指導要領について	大分県義務教育課 後藤 竜太氏	28
5	12月10日	～講義・視察～しいたけ生産の現状	きのこチーム 甲斐 薫氏	21
		～現地視察～循環型林業の最前線	佐伯広域森林組合	
6	2月26日	森林・林業教育演習及び情報共有	森林インストラクター協会 理事 岩谷 美苗氏	26

○体験フィールドの選定

- ・場 所 高尾山自然公園内
- ・対象者 小学生
- ・テーマ 季節ごとに森の中でや樹木などの自然体験し、楽しさ、不思議さを感じる

○森林・林業教育プログラムの実施

- ・森林・林業教育モデル校 玖珠町立小田小学校における森林・林業教室

(SDGsと森林、間伐、伐った木はどうか、校庭の木と友達になろう、森で遊ぼう、いろんな木)

- ・白杵市立川登小学校みどりの少年団における森林・林業教育  
(森の手入れをしよう(枝落とし・除伐))

#### ④ 実施状況写真

##### ・研修会開催の様子



【研修会開催状況】



【現地実習】

##### ・プログラム実施の様子



【この木何の木?】



【枝落とし・除伐方法教室】

#### (3) 成果

- ・森林・林業の現状や課題についての知識を持った「森林・林業教育指導者」育成研修会修了者30名を育成することができた。
- ・モデル校やみどりの少年において森林・林業教育プログラムを実施し、森林や林業への興味・関心を高める取組を検討できた。

#### (4) 今後の課題と取組

指導者育成研修に関しては、今後も学校教育における森林・林業教育の位置づけを理解し、森林・林業教育を実施できる指導者の育成を行う。

また、意欲ある子どもたちの資質向上を図るため、一般公募による森林体験教室を開催するなど、森林・林業教育の裾野を広げる取組を実施する。

## 2 森林林業教材作成事業

### (1) 実施主体

大分県 委託先：「株式会社プランニング大分」

### (2) 実施事業の概要

#### ① 目的

学校教育を通じ、大分県の森林の現状及び県産材利用の意義等の理解を促進し、体系的、継続的な森林・林業教育を推進するため、学習指導要領に沿った大分県の森林・林業副読本を作成する。

#### ② 事業内容

大分の森林・林業の現状や森林の持つ多面的機能、林業が果たす役割、森林や林業に携わる人々のインタビューなどを掲載したデジタル副読本を作成する。

小学校5年生社会、及び中学校技術家庭科の技術の授業で活用することを想定し、学習指導要領に沿った内容とし、またGIGAスクール構想のもと一人一台タブレットが配備された教育現場に適応した動画等を盛り込んだデジタル副読本とする。

また、指導者用ガイドブックを作成し、学習指導要領との関連性や活用例等を記載する。

#### ③ 実績

作成した副読本は、導入となる使い方ガイドを県内の小学校5年生及び中学校1年生に配布し、県HPにアップしたデジタル副読本にアクセスして活用してもらおう環境を整備した。



小学校5年生社会科用



中学校技術家庭技術用

### (3) 成果

- ・大分の森林や林業について、教科書を補填する教材を作成することができた。
- ・森林や林業に携わる人々の声を動画により触れることができ、子ども達のキャリア教育にも活用できるものとなっている。

### (4) 今後の課題と取組

副読本の内容を更新するとともに、副読本の効果的な活用方法の周知や利用促進のため、教育委員会と連携して教育現場への働きかけを行う。

### 3 森の先生派遣事業

#### (1) 実施主体

大分県 委託先：「NPO法人グリーンインストラクターおおいた」

#### (2) 実施事業の概要

##### ① 目的

次世代を担う子どもたちに森林や自然に対する理解を深めてもらうため、森林体験活動等を実施する。

##### ② 事業内容

保育所や幼稚園、小・中・放課後児童クラブ等で開催される行事等に県が認定する「森の先生」を講師として派遣し、森林体験活動等を実施する。

児童の安全に関する知識の習得及び指導力の向上を目的とした研修を実施する。

##### ③ 実績

子どもを対象とした森林体験活動の実績

	R 1	R 2	R 3
派遣回数	85回	81回	78回
派遣人数	492人	397人	410人
森林体験者数	4,565人	3,217人	2,926人

森の先生や教育関係者を対象とした研修会開催実績

	R 1	R 2	R 3
研修会回数	2回	2回	2回
参加者数	27人	37人	46人

#### ④ 実施状況写真

##### ・森林体験学習の様子



【自然観察会】



【別府大学での研修会】

## ・研修会の様子



【ネイチャア・フィーリング】



【森の先生ノウハウ共有会】

### (3) 成果

- ・ 保育所や幼稚園、小・中・放課後児童クラブ等で開催される行事等に、森の先生を78回派遣し、2,926人が森林体験活動を体験した。
- ・ 令和3年度は森の先生を対象に研修会を行い、お互いのノウハウを共有することで、能力の更なる向上を図った。

### (4) 今後の課題と取組

森林・林業教育の一環として活用されるよう、各教育機関にPRを行い、森の先生派遣事業の利用増加を図る。

また、森の先生の能力向上を目的とした研修を継続し、将来的には学校関係者にも参加してもらい、知識を共有する。

## 4 名樹とのふれあい事業

(1) 実施主体 市町村、大分県

### (2) 実施事業の概要

#### ① 目的

県指定の特別保護樹木（林）のうち、不健全樹木を保育、保全し健全な状態に誘導する。

#### ② 事業内容

- I 樹木医の診断に基づく樹木の治療
  - ・ 不健全な樹木の保全 ……整枝、剪定、古枝除去など
  - ・ 踏圧等による被害予防……進入防止柵設置など
- II 特別保護樹木・林の標柱（標識）の設置・立替

#### ③ R3実績

- ・ 治療 2件（大分市：鷹松神社の森のモチノキ、宇佐市：クロマツ）
- ・ 樹木医診断 1件（豊後大野市：健男社の森内のスギ）
- ・ 標柱・標識の設置 3箇所（別府市1件、豊後大野市2件）

#### (4) 活動状況写真

##### ①モチノキ（大分市）の治療

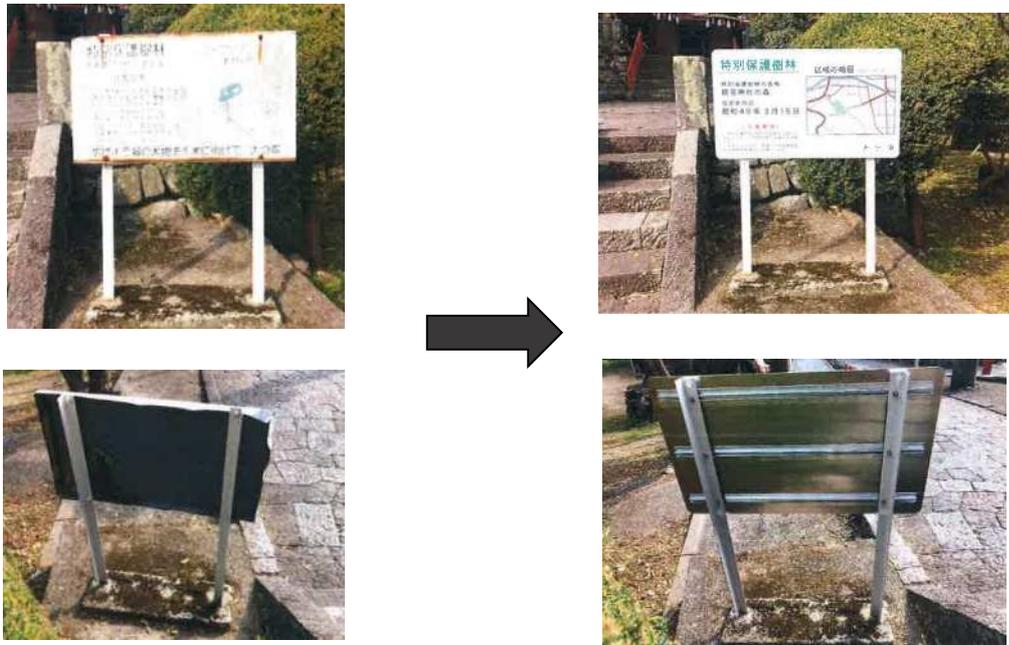


・着工前

・治療（整枝作業等）

・作業後

##### ②朝見神社の森（別府市）の標識立替



・表面の字が薄れて読めない状態

・立替後

##### ③樹木医による診断の様子（豊後大野市：健男社の森）



・診断に基づき診断書を作成

### (3) 今後の課題と取組

特別保護樹木（林）は樹齢が100年以上の古木が多いため、引き続き事業を実施し、樹木の健全化を図る。

また、古くから地域に愛されてきたシンボリックな存在であるため、県民が巨樹古木と文化の関わりを学ぶ場としても活用していきたい。

【活用例：城原神社の森（竹田市）での「森の先生」派遣による体験学習】



## 5 次代の森林づくり活動リーダー育成事業

### (1) 実施主体

大分県、大分県みどりの少年団育成連絡協議会

### (2) 実施事業の概要

#### ① 現状と課題

大分の豊かな森林を次世代に引き継ぐためには、次世代の森づくりを担う人材の確保・育成が課題となっている。

#### ② 目的

日頃から地域において森づくり活動や森林環境教育等を実践している子どもたちの中から「次代の森林づくり活動リーダー候補者」を選抜し、将来のリーダーとしての資質向上を図る。

#### ③ 事業内容

「地域活動の強化」、「他の少年団との交流」、「リーダー候補生として育成」の3つのステップに沿った支援を実施している。

#### 「地域活動の強化」

- ・少年団の地域活動への支援として、資材や機材の購入経費の補助を実施する。

#### 「他の少年団との交流」

- ・全少年団を対象とした交流会「つどい」を実施する。

【参加者】県下少年団から95名

【行程等】令和3年7月29日 ※本来は1泊2日。コロナのため日帰り開催

## ○「つどい」の様子



【活動発表】



【森林での体験学習】



【記念撮影】

### 「リーダー候補生として育成（リーダー育成研修の開催）」

- ・世界自然遺産のひとつである屋久島で、森林環境に関する研修を実施する。

【参加者】 県下少年団から35名程度

【行程等】 令和3年8月9日～11日（2泊3日）※コロナにより中止

○参考 実施状況写真（令和元年度）



【屋久島環境文化村センター】



【志戸子ガジュマル園】

### （3）成果

- ・少年団の地域活動への支援を行い、活性化をはかった。
- ・「つどい」での活動発表によって、他の少年団との交流を行った。自然の中での体験学習も実施し、森林への理解・関心を深めた。
- ・新型コロナウイルスの影響で、リーダー育成研修は中止となった。

### （4）今後の課題と取組

リーダー育成研修に関しては、感染症予防対策の方法等を見直し、コロナ禍での実施に向けて検討する。また、意欲ある子どもたちの資質向上を図るため、内容をさらに拡充させた研修会や活動を実施する。

## Ⅲ－４ 森林環境学習促進事業

【社会教育課】

### 1 実施主体

香々地青少年の家 九重青少年の家

### 2 実施事業の概要

#### (1) 現状と課題

- ・児童・生徒の自然体験活動・環境学習の機会が不足している。
- ・森林環境学習指導者の減少および高齢化にともない、新たな指導者の養成が急務である。

#### (2) 目的

森林環境学習を推進するため、森林環境学習指導者の養成と児童・生徒への学習機会の提供を行う。

また、子どもたちの体力・運動能力の向上を図るとともに、木への親近感を高めるため、運動遊びを通じた体験活動を行い、幼児期から木や森の魅力を体感できる機会拡充を図る。

#### (3) 事業内容

- ① 幼児期からの環境学習に関する学習機会及び体験活動機会の提供
- ② 森林環境学習指導者の資質向上及び新たな指導者養成
- ③ 「森で遊ぼう」自然環境での運動（遊び）推進

### 3 成果

緑の子ども園・緑の楽校 事業満足度

年度	H29	H30	R1	R2	R3
目標	85%	90%	90%	90%	99%
実績	100%	100%	100%	99%	100%

森林の環境学習サポート隊 事業参加者

年度	H29	H30	R1	R2	R3
目標	200名	700名	800名	800名	800名
実績	512名	1,092名	1,241名	348名	394名

「森で遊ぼう」生き生き自然体験キャンプ 事業参加者

年度	H29	H30	R1	R2	R3
目標	—	—	—	—	48名
実績	—	—	—	—	27名

### 4 今後の課題と取組

- ・次代を担う子どもたちの自然環境に対する興味・関心を高め、「生きる力」を育むことができる事業実施を図る。
- ・子どもたちの森林環境学習機会の増大にむけ、森林環境学習指導者の拡大と指導力向上につながる研修の充実を図る。
- ・子どもたちの森林や木への関心を高めるとともに、体力・運動能力・精神力の向上を図るための、環境学習を推進する。

### 5 実施状況写真



【緑の子ども園】



【緑の楽校】



【森林の環境学習サポート隊】



【生き生き自然体験キャンプ】

## Ⅲ－５ 未来の環境を守る人づくり事業

### 【うつくし作戦推進課】

#### 1 実施主体

大分県（委託先：おおいたうつくし推進隊、NPO法人、ボランティア活動などの社会貢献活動を行う法人格を持たない非営利団体等）

#### 2 実施事業の概要

##### （１）現状と課題

様々な環境問題の解決のためには、子どもの頃からの実体験を伴う環境学習が重要であるが、学校現場においては時間や予算がないといった理由により、年間を通じた計画的な環境学習が十分には実施されていない。

他方、青少年団体等で環境学習に取り組む団体もあるが、単発的なものが多く、体系的な活動を実施したくても資金面で困難な団体も多い。

##### （２）目的

大分の恵み豊かな自然環境を守り、将来に継承するため、県内の子どもたちに環境問題への関心を深め、解決に向けて自ら考え行動する力を育成し、環境関連の取組の担い手となってもらう。

##### （３）事業内容

###### ①おおいたこども探険団推進事業

県内の子どもたちに対する自然体験活動など、年間を通じて実体験を伴う環境学習を行う事業を県が団体に委託して実施する。

###### ②大分県環境教育アドバイザー派遣事業

地域や小中学校、企業などで行われる環境に関する勉強会などに、各分野の専門知識を有した環境教育アドバイザーを派遣する。

#### 3 成果

環境教育アドバイザー派遣事業については、前年度に比べ派遣数も受講者数も増加し、地域や学校、職場などにおける環境教育の機会を提供することができた。

##### ①おおいたこども探険団推進事業

年度	H30	R1	R2	R3
採択団体数	15	12	8	9
受講者数（人）	約2,600	約2,000	約600	約2,000

## ②大分県環境教育アドバイザー派遣事業

年度	H 3 0	R 1	R 2	R 3
派遣実績（人）	1 5 3	1 6 5	9 6	1 1 4
受講者数（人）	8, 7 5 0	8, 6 9 6	3, 4 8 6	5, 8 2 2

## 4 今後の課題と取組

おおいたこども探検団推進事業については、活動を実施する場の拡大や、希望する団体について県環境教育アドバイザーの助言を受けることができる体制を強化し、事業応募団体の多様化と、団体のレベルアップを図っていく。

環境教育アドバイザー派遣事業については、アドバイザー登録者の増加及び企業への派遣促進に向け取り組んで行く。

## 5 実施状況写真



① おおいたこども探検団事業  
NPO 法人アイラブグリーン大分  
（自然体験活動）



②大分県環境教育アドバイザー派遣事業  
（森林学習講座）

## Ⅲ－6 全国育樹祭開催準備事業

### (みどりの少年団活性化推進事業)

【全国育樹祭推進室】

#### 1 実施主体

大分県みどりの少年団育成連絡協議会

#### 2 実施事業の概要

##### (1) 現状と課題

- ・みどりの少年団の資金不足により活動が停滞している。
- ・専属の指導者が不足する等、みどりの少年団を継続して活動できる体制が整っていない。

##### (2) 目的

令和4年度本県で開催される全国みどりの少年団活動発表大会参加に向けた活動の強化による県内少年団の活性化を図り、育樹祭後の少年団活動の推進に繋げる。

##### (3) 事業内容

- ・みどりの少年団が行う地域活動や指導者の育成等に支援
- ・大分県みどりの少年団活動発表大会の開催

#### 3 成果

- ・地域活動等の支援  
植樹活動に必要な資材購入などに対する支援を行い、活動強化を図った。
- ・活動発表大会  
新型コロナウイルスの感染拡大の中、ビデオ形式の発表大会となったが、5団体が参加し、令和4年度の全国みどりの少年団活動発表大会の推薦団体を決定することができた。また、発表した地域ごとの特色ある少年団活動を記録紙とし、少年団や市町村等に配布することで少年団活動の活性化・相互研鑽による団員及び指導者の資質向上、活動の周知を図った。

#### 4 今後の課題と取組

次代の森林・林業を支え担う人材の核として、みどりの少年団が行う活動をさらに活性化させる必要があり、令和4年度の全国みどりの少年団活動発表会に向け、引き続き活動支援を実施する。

## 5 実施状況写真

○実施内容  
（工事現場での防災学習）



R3. 6. 3三郷小みどりの少年団

○実施内容  
（各地の森づくり活動）



機械実演見学：  
八坂かっぱクラブ緑の少年団

○実施内容  
（サツマイモ栽培活動・獣害防止柵設置）



R3. 6. 5高瀬みどりの少年団

○大分県みどりの少年団活動発表大会状況

**「高瀬森の応援団」**  
【協力】

- ・ サッポロビール九州日日工場
- ・ 高瀬生産森林組合

【目的】

自然とふれあうことで  
自然の大切さに気付く体験活動

【活動】

平成16年 A=1.03ha  
モミジ480本、ソメイヨシノ480本 を植樹  
現在 下草刈り・枝打ち・間伐等の森林体験活動




R4. 1. 26高瀬みどりの少年団発表大会撮影

○大分県みどりの少年団活動発表大会状況

**みわみどりの少年団で学んだこと**

- 森や木の大切さを知った。
- 木には色々な種類があり、役割もたくさんある。
- 木や森が災害から守ってくれている。
- 植物が二酸化炭素を吸収するより、私たちの生活では、多くの二酸化炭素が出てきている。
- 植樹はとても大切で、数十年後の未来を守るために行っている。
- 上流に住んでいる私たちがごみを川に捨てたら、下流の人たちの生活が困る



R4. 1. 26みわみどりの少年団発表大会撮影

## Ⅲ－７ 農山漁村を牽引する担い手確保・育成事業 【高校教育課】

### 1 実施主体

高校教育課が行う事業において、日田林工高校林業科を対象に実施

### 2 実施事業の概要

#### (1) 現状と課題

高齢化などにより林業経営体数が減少しており、森林荒廃や農山村の崩壊が危惧されている。そんな中、日田林工高校林業科では、専門性を活かした教育を実施しており、大分県林業に貢献していく生徒を育成している。今後さらに、関連就職・進学を増やしていくことが求められる。

#### (2) 目的

県林業を牽引する担い手育成には、森林・林業管理の効率化・省力化が期待されるスマート林業の活用などにより、先端的な森林管理の考え方や手法を直に学ぶ体験を通して、地域の林業における課題意識や解決に向けた意欲喚起を行っていく。併せて、小中学生における森林管理の重要性を伝え、林業の裾野を広げることに取り組む。

#### (3) 事業内容

##### ①外部講師招聘授業

目的：第45回全国育樹祭の取組の一環として、「木々と繋がるプロジェクト」オブジェ制作の取組に主として制作にあたる日田家具衆の活動を知ることにより、県内・市内および日本の森林林業を守る大切さについて学ぶ。

##### ②事業所見学

目的：木材関連企業の実態を見学することにより、専門教科に対する興味関心を高めるとともに、正しい職業観を養成し、進路選択の一つの指針とする。

見学先：日本フォレスト株式会社 天瀬工場、新栄合板工業株式会社 玖珠工場

### 3 成果

林業関連就職・進学への関心が高まった生徒の割合（％）

R2年度 1年生2学期林業関連就職・進学希望者33.0％

→R3年度 2年生3学期林業関連就職・進学希望者83.4％

### 4 今後の課題と取組

外部講師招聘や企業見学、国内研修など、コロナ禍で調整が難しく実施できない事業があった。今後はアフターコロナを想定して事業を実施する。そして林業の必要性等を学び、林業関連就職・進学者の増加を図る。

### 5 実施状況写真

#### ①外部講師招聘授業



#### ②事業所見学



外部講師：仙崎雅彦・中村広樹

日本フォレスト株式会社天瀬工場

新栄合板工業株式会社玖珠工場

## Ⅲ－８ みんなで支える森林づくり推進事業

### 【森との共生推進室】

#### 1 実施主体

大分県

#### 2 実施事業の概要

##### (1) 現状と課題

大分県森林環境税は「県民の理解と協力の下に、森林環境を保全し、森林を全ての県民で守り育てる意識を醸成する」ことを理念として、税を活用した取組を進めている。しかしながら、その理念や取組については、県民に広く浸透していない状況である。

##### (2) 目的

森林環境税導入の理念を広く県民に浸透させるため、森林づくり活動への県民の参加を促し、県民総参加の森林づくりを推進する。

また、森林環境税の適正な運営を行うため、県民の代表からなる外部委員による森林環境税活用事業の審議・検証を行い、効果的な税の活用を図る。

##### (3) 事業内容

###### ①第21回豊かな国の森づくり大会の開催

みどりの少年団8団体、一般参加者、大学生、その他関係者含め514名が参加し、豊後大野市大野町の全国植樹祭会場周辺において、森づくり活動及び学びの森林（もり）活動（森の教室、木のストラップづくり、花炭づくり、高性能林業機械実演見学、自然観察会）といった森林・林業体験活動を実施した。

- ・開催日時：令和3年11月13日（土）
- ・開催場所：豊後大野市大野町 全国植樹祭会場周辺
- ・主催：大分県、豊後大野市、（公財）森林ネットおおいた
- ・大会規模：参加者（みどりの少年団8団体、一般参加者、大学生、その他関係者）計514名
- ・活動内容：森づくり活動（樹種：イロハモミジ、ボタンザクラ、シラカシ、ヤマボウシ、カツラ、コブシ、コウヨウザン）大苗42本、小苗520本植栽。  
：学びの森林（もり）活動（森の教室、木のストラップづくり、花炭づくり、高性能林業機械実演見学、自然観察会）



植樹状況



自然観察会の状況

## ②ワークショップ「体験型子ども科学館 O-Labo 出前講座」の開催

全国育樹祭への機運を高めるため、森林学習活動として、一般公募により小学生28名が参加し、体験型子ども科学館 O-Labo（大分市府内町）において、おおいた林業アカデミー指導員 佐藤朗氏を講師として講座を開催した。

- ・開催日時：令和3年8月1日（日）
- ・開催場所：体験型子ども科学館 O-Labo（大分市府内町）
- ・主催：第45回全国育樹祭大分県実行委員会
- ・大会規模：参加者（公募による小学生）計28名
- ・活動内容：講座「タネの分散を学ぼう」の受講、タネの模型の製作、分散体験



講座実施状況



タネの模型製作状況

## ③ワークショップ「森林 de 学ぼうクイズラリー」の開催

全国育樹祭への機運を高めるため、森林学習活動として、大分農業文化公園において、木や森林の仕組みなどを楽しみながら学べるクイズラリーを開催した。

- ・開催日時：令和3年7月15日（木）～10月28日（木）
- ・開催場所：大分農業文化公園内
- ・主催：第45回全国育樹祭大分県実行委員会
- ・大会規模：参加者 計1,018名
- ・活動内容：森林 de 学ぼうクイズラリー



クイズラリー実施状況



クイズラリー実施状況

#### ④新たな森林づくり推進体制整備事業

##### ・「森林づくり委員会」の開催

令和3年度は第4期大分県森林環境税の初年度であり、第3期までの取組、また第4期の方針を確認するため森林づくり委員会を開催した。

回数	開催日	協議事項
第1回	R3.6.29	・令和2年度森林環境税活用事業の実績 ・令和3年度森林環境税活用事業の予算概要
第2回	R3.10.21	・令和4年度森林環境税活用事業提案について ・県政モニターによる森林環境税の評価について
第3回	R3.12.22	現地視察 ・大分芸術文化短期大学 音楽ホール・図書館 ・大成木材（株）プレカット施設 ・武道スポーツセンター

##### ・「森林づくり流域協議会」の開催

県内各流域における森林環境税活用事業の適正な運用のため、森林づくり流域協議会では、流域内のNPOなどが行う森林づくり提案事業の審査や事業成果の検証等を行った。

流域協議会	内容	開催回数
大分東部・大分中部・大分南部・大分西部・大分北部 (5流域)	・「森林づくり提案事業」(公募事業)の審査、実績の検証 ・意見交換等	書面決議

##### ・「次世代の大分森林づくりビジョン推進会議」の開催 (R3年度 1回開催)

森林の持つ多面的機能を高度に発揮させるため、本県の50年後のあるべき森林の姿と、森林環境税を活用した災害に強い森林づくりや低コスト再造林の推進などの、次世代の大分森林づくりビジョンの取組状況についての報告と検証を行った。

### 3 成果

#### (1) 第45回全国育樹祭に向けた取組

##### 第21回豊かな国の森づくり大会及び関連行事の開催

参加者数：1,560名

令和4年に本県で開催される全国育樹祭及び全国みどりの少年団活動発表大会に向けて、子ども達に森づくり活動を体験してもらうことで、森林の役割や、森林づくりの重要性について理解を深めることができた。

## **(2) 新たな森づくり推進体制整備事業**

「大分県森林づくり委員会」では、県民の意見を取り入れることで、大分県森林環境税を適正に運用することができた。

また、「森林づくり流域協議会」では、書面により各流域毎の森林づくり提案事業の審査・成果検証を審議し、「次世代の大分森林づくりビジョン推進会議」では、大分県の森林づくりにかかる課題・取組状況・成果を包括的に検証することができた。

## **4 今後の課題と取組**

多くの県民に森林環境税や森林づくりに対する興味を持ってもらうため、令和4年度に当県で開催される全国育樹祭を契機として、県民総参加の森林づくりを推進する。

大分県森林環境税活用事業については、激化する自然災害への対応、需要拡大に伴う人工林資源の利活用、森林林業教育のさらなる推進、SDGs や脱炭素の取組といった新たな動きへの対応など、変化する社会情勢に対応していくため、森林づくり委員会等により県民の意見を取り入れつつ、適正な運営を行う。

# Ⅲ－ 9 おおいたの森林づくり広報推進事業

【森との共生推進室】

## 1 おおいたの森林づくり広報推進事業

(1) 実施主体 大分県

(2) 実施事業の概要

### ①目的

大分県森林環境税を広く県民に知ってもらい、「県民総参加の森林づくり」の意識醸成を図るため、各種媒体を利用した広報活動を行う。

### ②事業内容

#### マスメディア等による広報

- ・ 県庁ホームページによる情報提供（随時）
- ・ 新聞広告 5回（大分県森林環境税事業のPR、事業募集の広報等）
- ・ テレビ・ラジオによる広報 10回（県民の森、森林環境税事業のPR等）
- ・ Facebook ページによる情報発信（豊かな国の森林づくり Facebook）
- ・ 「九州エコファミリー応援アプリ（エコふぁみ）」内お知らせへの掲載

【Facebook ページイメージ】

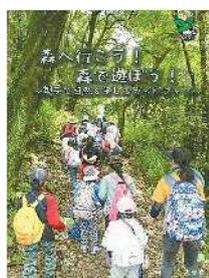


### その他の広報活動

- ・ 大分県森林環境税チラシ・パンフレットの配布（各2500部）
- ・ 各広報誌材の貸出（森林環境教育ガイドマップ、環境税タペストリー等）
- ・ 大分県森林環境税事業実績報告書を、市町村等へ配布。HP公開。
- ・ マスコットキャラクター「もりりん」着ぐるみを各種イベントに貸出し、森林・林業、大分県森林環境税に関するPRを行った。（R3もりりん貸出し回数：15回）
- ・ 「農林水産祭」等において、大分県森林環境税に関するコーナーを設置し、大分県森林環境税のPRを行った。
- ・ 森の先生派遣事業チラシの作成



【森の先生チラシ】



【ガイドマップ】



【タペストリー】

【環境税チラシ・パンフレット】



【PR用ばんそうこう】



○PRの様子

【もりりん着ぐるみによるPR】



【農林水産祭でのPRブース】



### (3) 成果

新聞広告やホームページなど各種媒体を活用し、大分県森林環境税に関する広報を行い、森林づくりに関する様々な情報を提供することで、「県民総参加の森林づくり」の意識の醸成を図った。

### (4) 今後の課題と取組

大分県森林環境税は第4期を迎えたが、未だに導入や用途について知らない県民も多い（認知度は43%）。そのため、今後もマスメディアやSNS等を活用し、タイムリーな情報発信を行う。